

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)、オベリア類(通称:クサ)

ラーバやクラゲは見られていません(図2、図3)。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で9.4個体/m³、川内沖で479.7個体/m³見られました(図4)。また、平成29年12月14日から平成30年1月5日まで川内沖で実施した付着基質調査でも見られました。

(3) アミクサ(通称:クサ)

小枝は見られていませんが、上記の川内沖における付着基質調査では見られました(図5)。

(4) マボヤ

久栗坂沖でラーバが3.3個体/m³、卵が0.6個体/m³見られました(図6)。

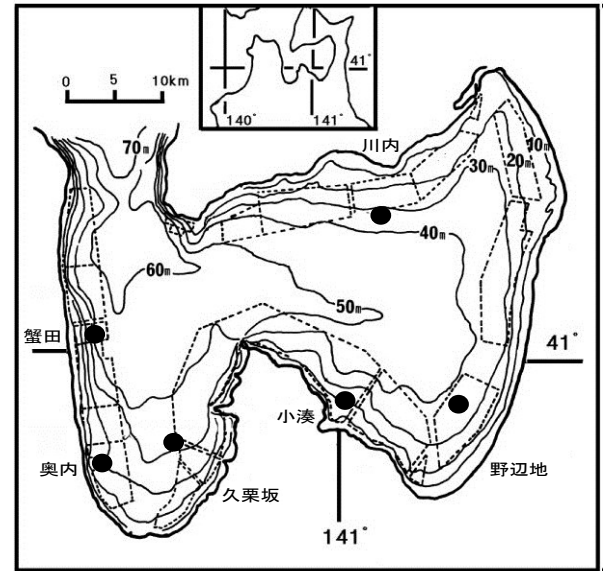


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が5~10℃台に低下しています。

ユウレイボヤの例年のラーバ出現ピークは過ぎており、久栗坂沖の累積ラーバ数は前回と変わらず1.2個体/m³なので、**分散済みの籠への付着は少ないと予測されます。**

キヌマトイガイのラーバの出現や付着基質への付着が昨年と同じく早いことから、**早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着し、今後、ラーバ出現数の増加と共に付着が進む**と思われます。

マボヤのラーバが減少傾向にあるので、**付着は終盤**を向かえたと思われます。

これから春にかけてアミクサ小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

単位:個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	オベリア類	アミクサ小枝
				ラーバ	卵			
久栗坂沖	H30.1.5	0.0	1.7	3.3	0.6	9.4	0.0	0.0
川内沖	H30.1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	479.7	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

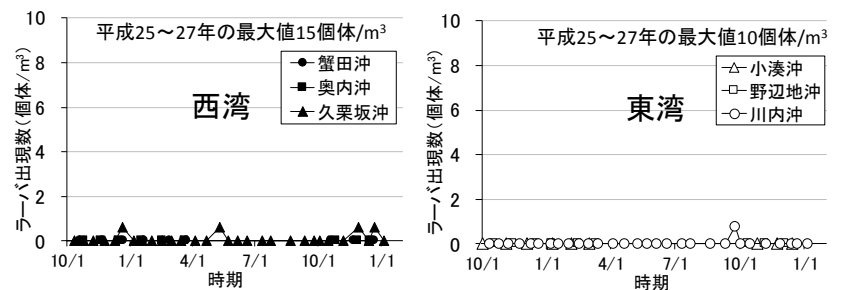


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

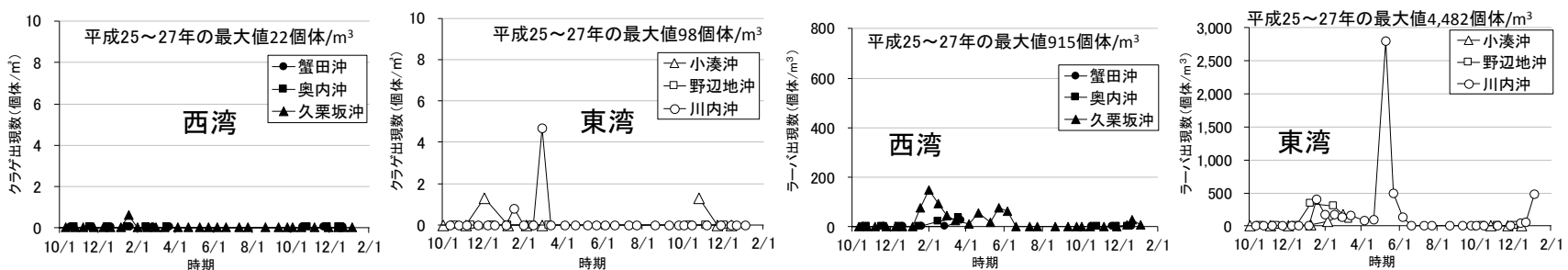


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月) 図4 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

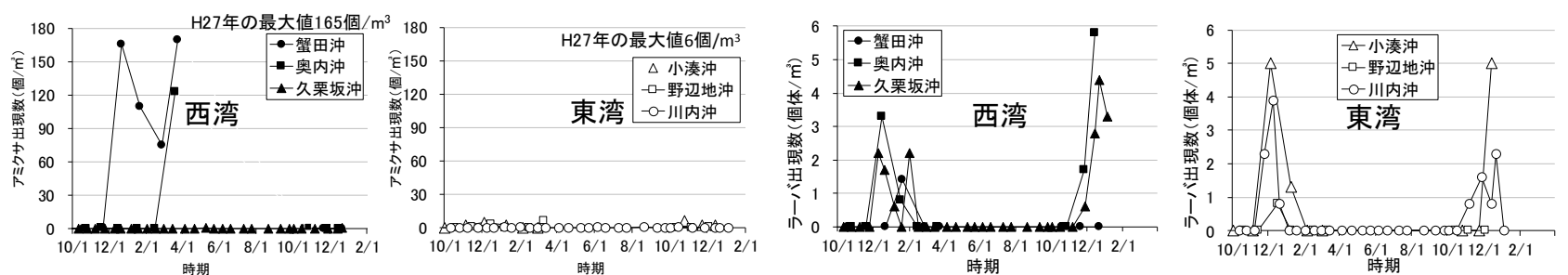


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月) 図6 マボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月~平成30年1月)

発行元: 地方独立行政法人

青森県産業技術センター 水産総合研究所

住所: 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10

TEL: 017-755-2155 FAX: 017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL: <http://www.aomori-itc.or.jp/index.php?id=2184>

id=2184

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード (1)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード (2)

